

長谷川芳子

2000年にロンドンであった、ユダヤ人歴史学者とホロコースト否定者との法廷劇の映画化。ユダヤ人女性の歴史学者デボラ・E・リップシュタットは、イギリスの歴史家ディヴットアーヴィングが訴える“ホロコースト否定論”を看過できず真っ向から否定していた。しかし、アーヴィングはリップシュタットを英国王立裁判所に名誉毀損で提訴。

しかし、英国の司法裁判は、訴えた側に立証責任がある。大弁護団が生まれ歴史の真実の追求が始まる。

この映画の面白さは、今現実に体験していると実感することだと思う。南京大虐殺・従軍慰安婦そして沖縄の歴史・基地問題等。サスペンス調で、最後迄観客を魅了する。学習院女子大学の武井彩佳准教授は、史実を意図的に矮小化したりする行為は歴史修正主義と呼ばれ、日本だけではなく世界的問題だとする。現代史を深く学ぶ歴史教育の大切さを指摘する。

私は、今沖縄高江への愛知県機動隊派遣違法訴訟に人生始めて原告として裁判に関わっている。弁護団会議なるものにも出席し、裁判とは如何に戦略的に原告側の主張の正当性を立証し、法的にもどう立証するか。智力・経験値の結集である。そして、自分に何が出来るのか自問自答の日々です。

この「ホロコーストの真実」に弁護団は、被告リップシュタットもホロコースト生存者をも証人喚問させなかった。アーヴィングの主張を併記せず、アウシュビッツの現地調査・アーヴィングの日記を調べ歴史の真実を争う。判決はいかに…。

20年前に実際に起きたこととは考えられないリアルさ。フェイクニュースやヘイトスピーチが、SNS等で蔓延する現代の風潮に警鐘を鳴らし普遍的課題であることを突き付ける。歴史の真実を如何に伝えていけるかが問われてもいる。

私が、属している映画ゼミでは、2017年のベストテンに「否定と肯定」を選んだ人がいました。私も、これから200超の作品からベストテン選びに入る。



## オススメの1冊

### ピンポイントでわかる 自衛隊明文改憲の論点 GENJIN ブックレット

安倍9条改憲の動きが急を告げるこの時期、超緊急に出版されたブックレット。憲法学者と弁護士、8人が編集、執筆をしていて、自民党の改憲4項目である、「自衛隊の明記」、「緊急事態条項」、「教育無償化」、「参議院合区解消」に対して、Q&A方式で簡潔かつ明瞭に批判をしています。第1部では、自衛隊を明記することによってどう自衛隊が変化をするのか、また、自衛隊だけではなく私たちの生活への影響があることを指摘しています。また、軍事費や軍事研究がこれまで以上に強化され、また、9条が改憲がされれば他の条文も改正について検討・実施されることになると警告しています。

緊急事態条項については、そもそも大規模災害などの緊急時に必要と言っていますが、現行の災害対策基本法で十分対処できるとしています。明治憲法下では緊急事態条項がいくつもあったため、緊急勅令が乱用されたため、その反省に立った上に今の憲法があります。緊急事態条項は権力の集中を招き、言論弾圧や人権侵害など招くと指摘しています。高等教育の無償化や参議院の合区、24条の家族条項についても、問題点や考え方をわかりやすく簡潔に記してあります。

自民党の憲法改正推進本部は、年内の国会発議を目標に、3月25日の自民党の党大会で改憲案を出せるように党内議論を進めています。改憲の発議をさせない「安倍9条改憲NO!の3000万人署名」を何としても成功させるための学習のテキストとしてぜひ活用をしてください。

発行：現代人文社 定価：本体900円＋税

